

2024. 11. 7

TOYOBO
Beyond Horizons

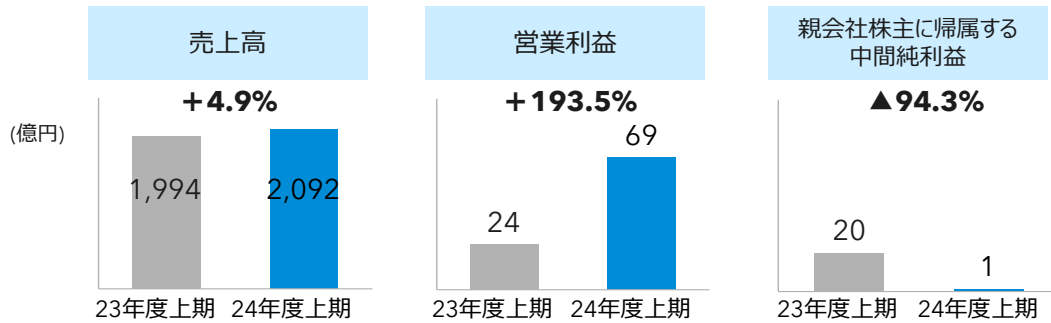
2024年度 第2四半期 決算説明

東洋紡株式会社

皆さんおはようございます。東洋紡社長の竹内でございます。本日は、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、平素は弊社をお引き立ていただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。それでは、資料に従いまして、説明申し上げます。

第2四半期（中間期）実績

ライフサイエンスが減益も、工業用フィルム、環境・機能材、機能繊維の収益改善で、営業利益は増益。中間純利益は、為替影響、固定資産処分損等により、1億円に留まる



2025年3月期 通期予想

包装用フィルム、ライフサイエンスの収益改善に加え、電子材料の数量増加と、交易条件改善、コスト削減により、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

決算のポイントでございます。2024年度第2四半期の実績は、増収増益となりました。営業利益は、ライフサイエンスが減益も、工業用フィルム、環境・機能材が増益し、機能繊維が収益を改善しました。中間純利益は、為替影響、固定資産処分損、減損損失などにより、1億円に留まりました。

2024年度の通期見通しについては、営業利益170億円、当期純利益26億円の当初計画を据え置きます。下期にかけて、包装用フィルムやライフサイエンスの収益改善、電子材料向けのフィルムや樹脂の数量増加、交易条件の改善、コスト削減の効果を織り込んでいます。

決算サマリー | PL

TOYOBO

(億円)

	23年度		24年度	増減	
	上期	下期	上期	金額	率
売上高	1,994	2,148	2,092	+97	+4.9%
売上総利益	418	462	473	+55	+13.2%
営業利益	24	66	69	+46	+193.5%
(率)	1.2%	3.1%	3.3%	-	-
経常利益	10	59	32	+21	+206.5%
特別損益	20	▲ 34	▲ 9	▲ 29	-
親会社株主に帰属する中間純利益	20	4	1	▲ 19	▲ 94.3%
EBITDA* <small>*営業利益+減価償却費(のれんを含む)</small>	118	170	181	+64	+54.0%
EPS (円)	22.8	5.0	1.3	-	-
ROE* <small>*24年度上期は年換算ベース。 (中間純利益×2)÷期首・期末平均自己資本</small>	1.3%		0.1%	-	-
営業CF	101	115	171	+70	+69.6%
減価償却費	94	104	112	+18	+19.0%
設備投資	300	316	250	▲ 50	▲ 16.6%
研究開発費	77	76	72	▲ 5	▲ 6.4%

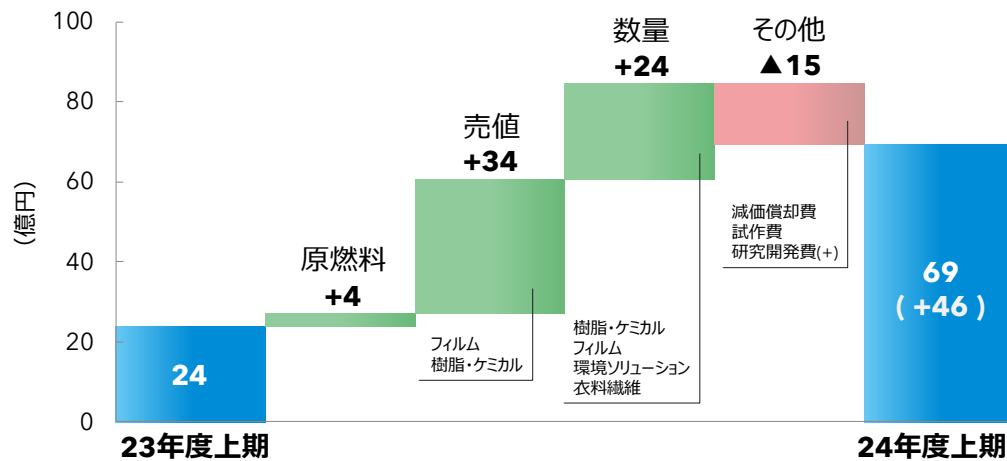
3

PLでございます。売上高は増収、売上総利益は前年同期比で55億円、13.2%の増益となり、売上総利益率は2ポイント弱改善しました。営業利益は増益、回復基調で、通期見通しに対してオンラインにあると認識しています。

営業利益の46億円の増加に対し、経常利益は、21億円の増加に留まりました。営業外損益が、為替影響により悪化しました。特別損益は、老朽化したフィルムの設備の一部除却、および減損損失の影響により、2023年度上期と比較して大きく悪化しました。加えて、非支配株主に帰属する中間純利益の増加もあり、親会社株主に帰属する中間純利益は1億円に留まりました。設備投資は高水準が続いていますが、概ねピークアウトに向かっています。

営業利益の増減要因

TOYOBO



	22年度		23年度				24年度	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
為替レート (円/US\$)	141	132	137	145	148	149	156	148
国産ナフサ (千円/kl)	72	67	67	64	73	73	79	77

4

営業利益の増減要因でございます。全体として、価格改定による売値因と、数量因が、大きく増益を牽引しました。過去3年間で約300億円となる、原燃料価格高騰による減益影響に対し、製品価格の改定を進めてきたことが、ようやくこの上期で実現していることが確認できます。まだ製品価格の改定が不十分なところもあるため、下期についても持続的な効果を読み込んでいます。

原燃料は、弊社に関しては、国産ナフサ価格の影響を受けます。2023年度上期に対し、2024年度上期の国産ナフサ価格は上昇していますが、期ずれによる影響や、石炭を中心とした燃料価格の下落の影響によって、4億円の増益となりました。

数量は、樹脂・ケミカル、包装用フィルムやセラコン用離型フィルム、中東向けトープ地の数量が増加しました。

その他は、減価償却費の18億円増加、試作費の増加がありましたが、その他のコスト削減を進め、15億円の減益に留めました。

決算サマリー | BS

TOYOBO

	(B)		(A)	(億円)
	23/3末	24/3末	24/9末	増減(A)-(B)
総資産	5,889	6,070	6,032	▲ 38
現預金	607	338	284	▲ 54
棚卸資産	1,219	1,220	1,200	▲ 20
有形固定資産	2,402	2,815	2,919	+104
純資産	2,214	2,301	2,289	▲ 12
自己資本	1,896	1,970	1,932	▲ 38
うち利益剰余金	705	703	670	▲ 34
非支配株主持分	318	331	357	+26
有利子負債	2,294	2,492	2,566	+74
D/E レシオ	1.21	1.26	1.33	-
D/E レシオ (資本性調整後) *1	-	-	1.11	-
Net Debt / EBITDA倍率 *2	5.8	7.5	6.3	-

*1 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

*2 (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

5

BSでございます。棚卸資産や運転資金は、売上高増収の中で圧縮することができました。有形固定資産は2024年3月末に比較して約100億円、2023年3月末に比較して約500億円増えています。これは、この数年間、積極的な設備投資を進めてきた結果であり、この増加分を有利子負債の増加で賄っているということです。今後、しっかりと成果につなげ、キャッシュとして取り戻すことが重要です。

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

			(B)			(A)	(億円)
	売上高			営業利益			
	23年度		24年度	23年度		24年度	増減
	上期	下期	上期	上期	下期	上期	(A)-(B)
フィルム	781	785	828	14	13	30	+16
ライフサイエンス	166	180	172	24	20	9	▲ 15
環境・機能材	525	628	552	4	43	34	+30
機能繊維・商事	457	500	479	▲ 9	▲ 2	1	+10
不動産・その他	66	56	60	14	16	12	▲ 2
消去・全社	-	-	-	▲ 24	▲ 24	▲ 16	+7
合計	1,994	2,148	2,092	24	66	69	+46

6

セグメント別の動きでございます。売上高は、主要事業で概ね増収となりました。営業利益は、ライフサイエンスが減益、それ以外のセグメントが増益となりました。

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	390	391	781	421	407	828	+48	+6.1%
営業利益	12	2	14	15	15	30	+16	+110.4%
(率)	3.2%	0.5%	1.8%	3.6%	3.7%	3.6%	-	-

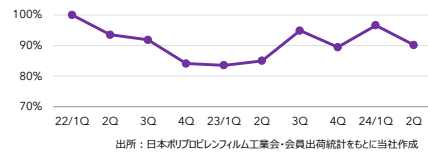
包装用フィルム

- 収益性改善に遅れ。製品価格の改定は進むも、新製品開発費用などコスト上昇影響あり

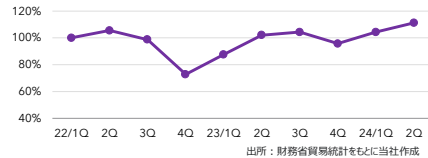
工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、数量増加も、用途によりバラツキあり

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (22/1Q:100%)



日本からのMLCC輸出実績 (22/1Q:100%)



それぞれのセグメントについて説明いたします。まずフィルムでございます。増収増益となりましたが、本来の利益水準に比べると、まだ回復途上と認識しています。工業用フィルムは液晶偏光子保護フィルムを中心に堅調でしたが、包装用フィルムの収益性改善が遅れました。

汎用的な包装用フィルムは、お客さまのご理解をいただきながら価格転嫁が進み、数量も、2023年度上期の大きな落ち込みから緩やかに回復してきているため、収益が正常化に向かっています。しかし、超高剛性OPPという世界初のフィルムへの挑戦などのコスト増因もあり、赤字構造から脱却できませんでした。下期にかけて、超高剛性OPPフィルムの機台立上げのめどをつけ、上期には満額まではできていない価格転嫁の実現をめざします。

工業用フィルムは堅調で、特に、液晶偏光子保護フィルムは旺盛な需要により出荷堅調でした。セラコン用離型フィルムは、2023年度上期と比較して数量は着実に増えましたが、用途によるバラツキがありました。その他の一般工業用フィルム含め、回復基調にあります。

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	81	84	166	81	91	172	+6	+3.9%
営業利益	14	10	24	4	5	9	▲15	▲62.2%
(率)	16.6%	12.4%	14.5%	4.6%	5.8%	5.3%	-	-

バイオ

- 診断薬用原料酵素は国内外ともに堅調に推移。生産能力増強に伴う費用が増加

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移。製造コスト上昇に加え、新工場の立上げ費用が増加

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）を受け、収益性改善

ライフサイエンスは増収減益でございました。バイオとメディカルはともに出荷が堅調でしたが、新設備立上げに伴う費用の増加、新工場立上げの遅れの影響がありました。

バイオはバックオーダーを抱えている状況で、需要は国内外で非常に堅調です。4月に立ち上げた新設備の効果が、上期後半から実現し始めており、下期にはフルで寄与することを見込みます。

メディカルは人工腎臓用中空糸膜の出荷が非常に堅調ですが、新工場の立ち上げが若干遅れており、下期には実現します。

医薬はこれまでFDA対応の影響により出荷が滞っていましたが、解除に伴い出荷が始まっており、上期にはまだ抱えていた赤字が、下期には大きく改善する見込みです。

以上によりライフサイエンスは下期に大きく利益が改善すると計画しています。

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	250	276	525	281	272	552	+27	+5.1%
営業利益	▲7	10	4	13	21	34	+30	+806.9%
(率)	-	3.7%	0.7%	4.5%	7.7%	6.1%	-	-

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、北中米向け自動車用途の販売が拡大
- 光機能材料（感光性樹脂版）は、中国向けを中心に販売堅調

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、LIBS*1製造工程で使用されるVOC回収装置の販売が増加。
リチウムを濃縮回収するためのBC*2膜装置の販売が寄与
- 高機能ファイバーは、海外需要を着実に取り込み、堅調に推移

*1 リチウムイオン電池セパレータ
*2 Brine Concentration

環境・機能材でございます。主には東洋紡と三菱商事のジョイントベンチャーである東洋紡エムシーからなります。発足して2年目となりました。不織布マテリアルの構造改革を進めた一方で、強い商材の拡販が進み、増収増益となりました。2023年度上期は新社立上げの費用がありましたが、収益の回復軌道にあると認識しています。

樹脂・ケミカルでは、エンジニアリングプラスチックは、中国向けが苦戦しましたが、北中米向けが堅調でした。感光性樹脂版である光機能材料は、逆に中国向けが堅調で、利益を伸ばしました。

環境・ファイバーでは、環境ソリューションは、リチウムイオン電池セパレータの製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が堅調でした。しかし、足元では、EV化の進展にややブレーキがかかり始めているため、下期以降、数量については慎重な見直しに変更しています。加えて、従来からBC膜は展開してきましたが、リチウムを濃縮回収するBC膜装置の販売が新しく始まりました。高機能ファイバーは、スーパー繊維ですが、海外需要を着実に取り込み、堅調に推移しています。

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	222	235	457	240	239	479	+23	+5.0%
営業利益	▲7	▲1	▲9	2	▲1	1	+10	-
(率)	-	-	-	0.8%	-	0.2%	-	-

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要に牽引され販売が増加。加えて、為替影響により輸出採算が好転
- 国内生産拠点の集約などの構造改革により、収益性改善

エアバッグ用基布

- 製品価格の改定が進み、収益性改善

10

機能繊維・商事でございます。増収増益でした。利益水準はまだ低位にあります。改善方向です。

衣料繊維は、中東向けトープ地が堅調で、為替影響が増益に寄与しました。

これまで赤字で厳しかったエアバッグ用基布は、価格改定を進め、収益性が改善に向かっています。

衣料繊維の黒字化、エアバッグ用基布の大きな赤字幅縮小と、ロードマップ通り、黒字化への進展が見られた上期でした。

セグメント別 アクションプランの進捗

TOYOBO

セグメント	アクション（2024年5月時点での計画）	進捗*
フィルム	■ 包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大 <ul style="list-style-type: none"> 包装用フィルム：一層の価格改定。新機台・新製品の本格立上げ、生産体制見直し セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。新機台立上げ 液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応 	▲ ○ ○
ライフサイエンス	■ 新ラインの確実な立上げと成長策実行 <ul style="list-style-type: none"> バイオ：生化学診断薬用原料酵素拡販。リニューアル増産設備立上げ メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ 急性血液浄化膜、プロセス膜、バイオマテリアルへの展開 医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注 	○ ▲ ○ ○
環境・機能材	■ 東洋紡エムシー（株）：成長策の成果実現、不織布マテリアルの収益性改善 <ul style="list-style-type: none"> 環境ソリューション：LIBS向けVOC回収装置の海外販売拡大。FO・BC膜の新規案件獲得 工業用接着剤：環境対応型拡販、海外拡販、新ライン立上げ エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。数量拡大と一層の価格改定 不織布マテリアル：国内生産体制の見直し、外部生産委託の拡大、開発品の強化・推進 	○ ▲ ○ ○
機能繊維・商事	■ 要改善事業の対策実行 <ul style="list-style-type: none"> エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行 衣料繊維：資産効率改善の追求 	○ ○

* ○：計画通り、▲：遅れ

11

セグメント別のアクションプランの進捗でございます。フィルムでは、包装用フィルムは、上期ではまだ課題が残っていますので、下期に解決していきます。ライフサイエンスでは、新設備・新工場をしっかりと利益につなげることが課題です。環境・機能材では、不織布マテリアルにおいて上期にグループ会社2社をカーブアウトするなど構造改革を進めています。この構造改革をやり遂げて、全体の収益を底上げします。機能繊維・商事では、ロードマップに沿って各事業が改善を進めており、やり遂げることが課題です。

2024年度の事業環境見通し

TOYOBO

セグメント	事業	前回見通し (2024年8月時点)	今回見通し	
			対前回*	前回見通しとの差異
フィルム	包装用	在庫調整を終え、緩やかに回復へ	-	在庫調整終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	-	需要堅調
		MLCCは年度後半から需要回復	▲	年度を通じて徐々に拡大
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	-	需要は堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	-	需要は堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途は海外中心に堅調に推移	-	アジア向けで減速感あり。北中米向けは堅調
		電子材料用途の需要回復	-	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置の需要堅調	▲	EV化減速の影響
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	-	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産は堅調に推移	-	アジア向けで減速感あり。北米向けは堅調
共通		国産ナフサ価格が上昇（製品価格の改定で対応）	-	国産ナフサ価格は高止まり（製品価格の改定で対応）

* 前回見通しに対し、○：改善・拡大、-：想定通り、▲：悪化・減少 12

2024年度の事業環境見通しでございます。2024年度1Q時点から2点変更しています。

1点目は、セラコン用離型フィルムは、数量は前年度比で増えているものの、今年度後半からの急激な回復というより、むしろ、緩やかな回復をしていくと見通しました。加えて、環境・ファイバーのVOC回収装置は、下期にEV化減速の影響を受けると見通しました。

2024年度 業績見通し

TOYOBO

包装用フィルム、ライフサイエンスの収益改善に加え、電子材料の数量増加と、交易条件改善、コスト削減により、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

(億円)

	23年度	24年度			増減		直近予想 (24/8)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	4,143	2,092	2,258	4,350	+207	+5.0%	4,350
営業利益	90	69	101	170	+80	+89.0%	170
(率)	2.2%	3.3%	4.5%	3.9%	-	-	3.9%
経常利益	70	32	83	115	+45	+65.2%	115
特別損益	▲ 14	▲ 9	▲ 31	▲ 40	▲ 26	-	▲ 36
親会社株主に帰属する当期純利益	25	1	25	26	+1	+5.9%	26
EBITDA	288	181	222	403	+115	+39.9%	405
EPS (円)	27.9	1.3	28.2	29.5	-	-	29.5
減価償却費	198	112	121	233	+35	+17.6%	235
設備投資	616	250	230	480	▲ 136	▲ 22.0%	500
研究開発費	153	72	78	150	▲ 3	▲ 2.0%	160

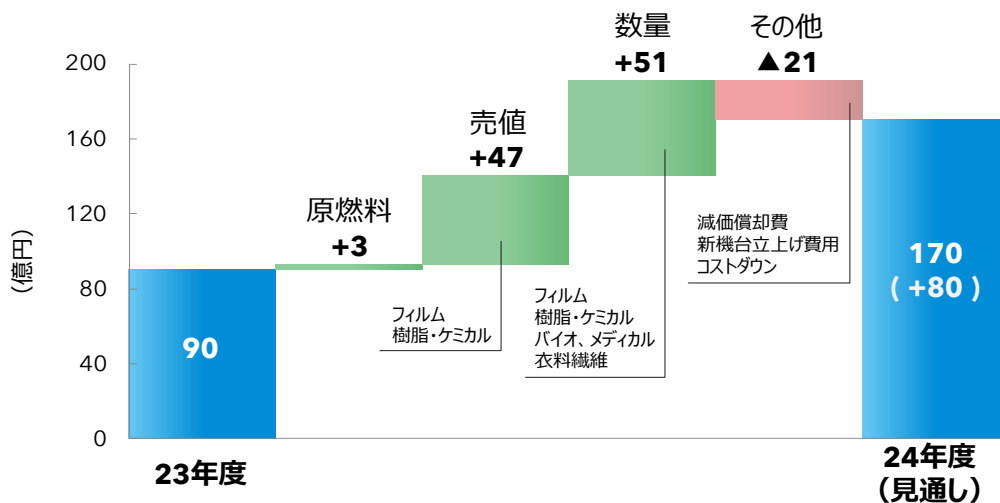
■設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

13

2024年度の業績見通しでございます。包装用フィルム、ライフサイエンスの収益改善に加え、電子材料の数量増加と、交易条件の改善、コスト削減の効果により、営業利益170億円、当期純利益26億円の計画を据え置きます。

営業利益の増減要因

TOYOBO



	23年度	24年度	直近予想 (24/8)
為替レート (円/US\$)	145	150	152
国産ナフサ (千円/kl)	69	75	75

14

2024年度の営業利益の増減要因です。上期の実績を踏まえ、売値因と数量因の増益効果を大きく見込んでいます。全社で進めているコストダウン活動の効果も、利益を下支えになると見込んでいます。

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (24/8)
	23年度 実績	24年度 見通し	23年度 実績	24年度 見通し	増減	
フィルム	1,565	1,700	27	65	+38	73
ライフサイエンス	346	380	44	32	▲12	37
環境・機能材	1,153	1,150	47	80	+33	80
機能繊維・商事	957	1,000	▲10	5	+15	0
不動産・その他	122	120	30	25	▲5	25
消去・全社	-	-	▲48	▲ 37	+11	▲45
合計	4,143	4,350	90	170	+80	170

15

セグメント別見通しでございます。2024年度1Q時点から若干の変更があります。フィルムは、包装用フィルムの改善の上期の遅れを勘案し、下方修正しました。ライフサイエンスは、バイオの新設備は予定通りに立ち上がっていますが、メディカルの新工場の立ち上げが若干遅れている影響を勘案し、下方修正しました。消去・全社は、上期の実績を踏まえて見直しをしました。

未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す

項目	進捗	評価*
1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・重大インシデントゼロ ・エンジニアリングプラスチックのISO9001認証再取得 	○
2. 価値に見合ったプライシングの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・原燃料価格影響に対し、売値転嫁率 89% (2021~2024年度累計 原燃料▲289億円、売値+257億円) 	○
3. 要改善事業（低収益・赤字セグメント）対策	<ul style="list-style-type: none"> ・包装用フィルム：収益性改善が遅れ ・不織布マテリアル：国内生産体制見直し、子会社株式譲渡 ・エアバッグ用基布、医薬品製造受託：ロードマップに従い収益性改善 ・衣料繊維：2024年度上期黒字化 	▲ ○ ○ ○
4. 成長投資の確実な回収	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPフィルム：超高剛性フィルム立上げ遅れ（モノマテリアル） ・セラコン用離型フィルム：新設備が完成 2025年春頃より商業生産開始 ・バイオ：計画通り立上げ、本格寄与開始 ・メディカル：試作開始、販売寄与遅れ 	▲ ○ ○ ▲
5. 投資、経費の絞り込み、コストダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資計画（見直し後）に沿って、着実に実行 ・短期収益改善に向けたコスト削減、販管費節減 	○ ○

* ○：計画通り、▲：遅れ

16

最後に、2024年度経営方針の進捗でございます。上期実績は、収益の回復軌道にあるもののまだ途上にある、と認識しています。下期にかけて収益を改善し、2025年度につなげていきます。

経営方針の1~5のうち、1.安全・防災、品質、コンプライアンスは大前提です。上期に遅れているのは、3.要改善事業対策と、4.成長投資の確実な回収です。

要改善事業のうち、衣料繊維は着実に改善していますが、主力の包装用フィルムの収益性改善が遅れています。成長投資は、しっかりとしたキャッシュの回収、利益への貢献が遅れています。計画通りに進捗している案件がある一方で、遅れている案件があり、今から立ち上がる案件もあります。しっかりと利益に結び付けることが今後の課題です。加えて、5.投資、経費の絞り込み、コストダウンを進めます。ここ数年、積極的な投資を進め、研究開発費を含めて費用が増えています。今一度、増えている固定費を全社プロジェクトの中で見直しています。

2024年度上期は、オンラインではありますが、まだ不十分です。下期に確実に予算を達成し、今後に繋がります。

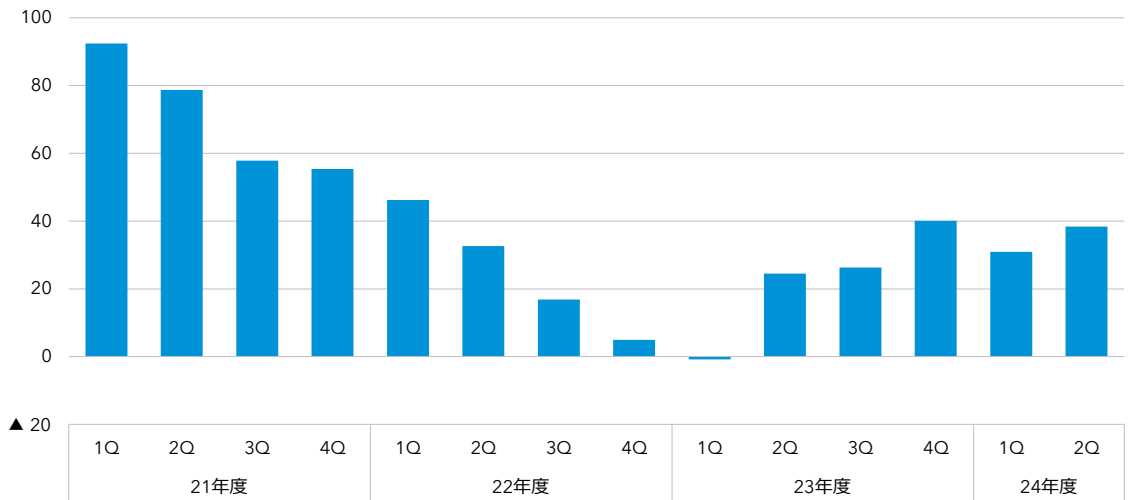
私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

補足

四半期別営業利益推移

TOYOBO

(億円)



セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	23 年度					24 年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム	390	391	393	391	1,565	421	407
ライフサイエンス	81	84	87	93	346	81	91
環境・機能材	250	276	336	292	1,153	281	272
機能繊維・商事	222	235	232	268	957	240	239
不動産・その他	28	38	30	26	122	29	31
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	971	1,024	1,079	1,069	4,143	1,052	1,040

営業利益	23 年度					24 年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム	12	2	1	12	27	15	15
ライフサイエンス	14	10	11	10	44	4	5
環境・機能材	▲ 7	10	26	17	47	13	21
機能繊維・商事	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10	2	▲ 1
不動産・その他	4	10	7	9	30	5	7
消去・全社	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48	▲ 7	▲ 9
合計	▲ 1	24	26	40	90	31	38

セラコン用離型フィルムの新製造設備 完成

- 所在地： 宇都宮工場
- 投資金額： 約 200 億円
- 生産能力： 約 2 万t/年
- 商業生産開始： 2025年春予定
- 市場： 成長率 **7%**/年以上
- グローバルシェア： **約 25%**（当社推定）
- 特長： インラインコートとオフラインコートの両方の生産方式で、ミドル～ハイエンドの幅広いセラコンに対応
- 今後： AIサーバーなど、高性能IT機器向けで需要が増加するセラコン向けに拡販



新製造設備 外観

生化学診断薬用原料酵素の製造設備 増設

- 所在地： 敦賀バイオ工場（敦賀事業所内）
- 投資金額： 約 70 億円
- 生産能力： 従来の約 **1.5倍**
- 稼働時期： 2024年4月より稼働開始

- グローバルシェア： 約 **25%**（当社推定） 2位
- 海外売上高比率： 約 70%
- 今後： 新興国を中心とした海外展開を拡大



生化学診断薬用原料酵素
血糖（糖尿病）、コレステロール（動脈硬化）、
クレアチニン（腎機能）、GOT/GPT（肝機能）など



敦賀バイオ工場 培養・精製新棟 外観

高機能ファイバーの浮体式洋上風力発電用係留索への展開

- “イザナス” 超高強力ポリエチレン繊維
- 特性： 高強度、高弾性率、軽量、高耐水性



“イザナス” ULC

国内初の実海域における洋上風力発電用 TLP 型浮体*1の実証実験に参画 ～新開発の“イザナス” ULC*2が日本海事協会の承認初取得～

- *1. 浮体式洋上風力発電施設の浮体構造・係留方式の一つ（TLP：テンション・レグ・プラットフォーム）
特長：浮体の動揺安定性や発電効率が高い、海域の占有面積が小さい（漁業への影響が少ない）
- *2. “イザナス”の製糸工程を改良し、従来の特性を維持しながら、耐クリープ性を実現



（画像：大林組提供）

BC膜（Brine Concentration）装置の拡販

- 中空糸型CTA膜（当社独自技術）を使用
- 用途： 製塩、排水処理
有価物回収（リチウムの濃縮回収用途に採用）
- メリット： 蒸発法や他の膜濃縮法に対し、エネルギー消費量が低い



東洋紡グループ統合報告書「TOYOBO REPORT 2024」を公開**主な内容**

- CEOメッセージ
- 長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」、「2025中期経営計画（2022～2025年度）」
- 価値創造プロセス、東洋紡の強み、諸資本とビジネスモデル
- 人材戦略、イノベーション戦略、グリーン戦略、事業戦略
- 社外取締役座談会 など

ダウンロードURL

日本語版：<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

英語版：<https://ir.toyobo.co.jp/en/ir/library/integrated.html>



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

TOYOBO
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.